



- 主な展示製品
- マルチモダリティモニター
 - 医用画像表示モニター
 - 電子カルテ画像表示モニター
 - デジタルマンモグラフィ表示モニター
 - モニター品質管理ソリューション
 - 手術室向けソリューション

テーマ EIZOが奏でる白い輪舞曲 (ロンド)

ハイブリッド手術室などに向けた新製品「手術室向けソリューション」や、モニター側面を白色に統一した患者視点に立った新製品など、先進的な映像情報ツールを提示。

手術室向けソリューション 「CuratOR (キュレーター) Surgical Panel」

モニターに映し出される数多くの情報を参照しながら、効率よく手術を行うための「手術室向け映像情報ソリューション」。用途に合わせて「CuratOR Surgical Panel 標準モデル」4種類を製品化した。今回のブースでは、その中の「SP1-55」および「SP1-24」を展示。「SP1-55」は手術室の壁面に完全に本体を埋め込む仕組みで、推奨解像度1920×1080の高輝度展示が可能な55型モニターを内蔵している。

共に設置の信号配信マネージャー「LMM0804」との接続により、顕微鏡や内視鏡などの術野映像および生体情報、HIS・PACSなどの医療情報についても統



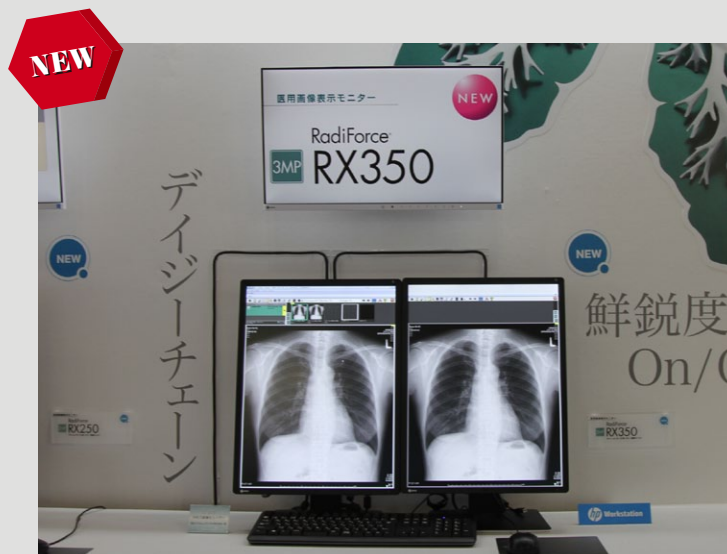
CuratOR Surgical Panel

合表示できる。「SP1-24」は手術室の看護スタッフが使用する部門システムなどのアプリケーション表示や操作に適している。

医用画像表示モニター 「RadiForce RX350」

胸部X線、CR・DRなどのモノクロ画像、Fusionや3Dボリュームレンダリングなどのカラー画像の混在表示に対応した、高解像度3メガピクセルの医用画像表示モニター。画像の細かい部分の不鮮明さの補正や画像の輪郭を鮮明に描出できるEIZO独自の「鮮鋭度補正On/Off」機能を搭載している。また、入力端子だけでなく、DisplayPort出力端子を搭載し、デイジーチェーン(数珠つなぎ)接続により、複数モニター使用時の配線をシンプルにした。

さらにデザイン面では、画面外枠には読影作業に集中しやすい黒色を、また側面には清潔感と軽量感を表す白色を環状に配置。四隅の角を丸くして、患者への安心感を増す効果を狙っている。



RadiForce RX350

読影室向け間接照明 「RadiLight」

読影室では太陽光や室内照明がモニター画面に映り込み画像の見え方が変化するため、カーテンを閉めたり照明を消したりするが、こうした暗い環境で明るいモニターを見続けることが放射線科医の目の疲れにつながっていた。背面スタンド部に取り付ける照明キット「RadiLight」は、背面の壁を照らすことで室内の明るさを確保するとともに、モニター画面への映り込みがなく、読影作業の妨げにならない製品であり、明るさを10段階に調整できる。



RadiLight